

宮浦ギャラリー六区

《瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館》
公開のお知らせ

宮浦ギャラリー六区（香川県、直島）では、プロジェクト《瀬戸内「
」資料館》の第4回の展示として《瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館》を瀬戸内国際芸術祭 2022 の夏会期と秋会期に公開します。

本展示では、直島出身の写真家・中村由信と、中村が属していた直島の写真団体「直島どんぐりクラブ」に焦点を当てます。中村と「直島どんぐりクラブ」のあゆみ、彼らが撮影した写真を展示することで、当時を懸命に生きた島の人々の姿や瀬戸内の風景を垣間見ることができます。



写真：中村由信「産婆さん」（昭和33年）
島や地域の子供たちおよそ5,000人以上を取りあげた直島の産婆さん。



写真：緑川洋一「孤島の写真狂兄弟」
クラブのメンバーだった安部兄弟。
直島諸島の一つに住んでいた二人を緑川洋一が撮影。

瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館

《瀬戸内「
」資料館》について

アーティスト・下道基行による《瀬戸内「
」資料館》は、2019年9月から始動しました。瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて、そこに住む人々、関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交え、調査、収集、展示し、語り合う場として構想しました。「
」の中には毎回の展示のテーマが表記されます。一連の営みは記録として保存し、次への展開に活用していきます。

《瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館》について

中村由信（なかむら よしのぶ）

昭和20年代から写真を撮り始め、自身を含む直島の仲間たちと直島を中心とした瀬戸内の島々の風景や暮らしを撮影。昭和30年に上京し、写真集を出版するなど、プロの写真家として活躍しました。代表作「瀬戸うちの人びと」（1965）では鯛網の網元、産婆さん、郵便屋さん、世話焼き婆さん、医師など瀬戸内をめぐる人々の生業や暮らしが生き生きとおさめられています。

直島どんぐりクラブ

中村らが中心となり1950年（昭和25年）ごろにスタート。三菱マテリアルで働く友人らで結成され、中村が上京するまでの5年間ほど活動が続きました。クラブ名は写真の素人たちで結成し“どんぐりの背比べ”だったから、ということに由来。岡山の写真家・緑川洋一に師事。

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島 広報担当 太田・宮重
〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel.087-892-2550 Fax.087-892-2011
E-mail press@fukutake-artmuseum.jp <https://benesse-artsite.jp/>

■ 展示写真について

中村由信による戦後間もない頃の直島や瀬戸内の風景などを撮影した写真を写真集「瀬戸うちの人びと」(1965)から展示。また、「直島どんぐりクラブ」のメンバーによる作品も一部展示します。



中村由信「郵便屋さん」(昭和35年 直島群島)



昭和30年 岡山県宇野駅 提供：村尾由紀子
上京する中村(上段中央)、直島どんぐりクラブや友人たち

■ 宮浦ギャラリー六区

2013年、直島・宮ノ浦地区に設置されたギャラリー。建築家・西沢大良による設計で、かつて島民が行き交っていた娯楽の場「パチンコ999(スリーナイン)」を、隣接する公園とともに、島内外の人々が集う憩いの場として開館しました。2019年9月からは下道基行によるプロジェクト《瀬戸内「
」資料館》を実施。



宮浦ギャラリー六区



《瀬戸内「鍛造景」資料館》(2021-2022)の様子
写真：左右ともに宮脇慎太郎

取材・掲載の際には、担当者までご連絡いただくか、専用ページよりお申し込みください。

| 取材申し込み専用ページ | <https://benesse-artsite.jp/contact/press/>

アーティストプロフィール

下道基行（したみち もとゆき）

1978年岡山生まれ。2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。日本国内の戦争遺構の現状を調査する「戦争のかたち」（2001-2005）、祖父の遺した絵画と記憶を追う「日曜画家」（2006-2010）、日本の国境の外側に残された日本の植民／侵略の遺構をさがす「torii」（2006-）など、展覧会や書籍、ワークショップなどで発表を続けている。フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真やイベント、インタビューなどの手法によって編集することで視覚化する。2019年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館の参加アーティストでもあり、国内外さまざまな展覧会に参加。さらに、作家として作品をつくることと並行して、「Re-Fort Project」（2004-）、「新しい骨董」（2014-）、「旅するリサーチラボラトリー」（2015-）など、さまざまな人々とのグループ／コレクティブでのプロジェクト活動も多数行っている。2019年より《瀬戸内「 」資料館》を企画・推進し、「館長」に就任。

インフォメーション

- 会期** : 瀬戸内国際芸術祭2022
夏会期 2022年8月5日（金）～9月4日（日）
秋会期 2022年9月29日（木）～11月6日（日）
- 休館日** : 月曜日（月曜が祝日の場合は開館。翌日休館）
- 開館時間** : 10:00～17:00（最終入館16:30）
- 会場** : 宮浦ギャラリー六区／瀬戸内「 」資料館
（〒761-3110 香川県香川郡直島町2310-77）
- 鑑賞料金** : 520円（瀬戸内国際芸術祭2022パスポート対象施設）
- アーティスト** : 下道基行
- キュレトリアル・アドバイザー** : 三木あき子
- 主催** : 公益財団法人 福武財団